

いまだキッ! 大学生

皆さんからの情報や感想を待っています
〒460-8511(住所不要)中日新聞 教育報道部
☒ youth@chunichi.co.jp

名古屋学芸大栄養学科の学生

東日本大震災で被災した宮城県石巻市萩浜の仮設住宅で、名古屋学芸大(愛知県日進市)の学生が住民向けの無償の食事を2年前から春休みと夏休みの間に開いている。独居の住民やお年寄りが多く、学生による栄養満点の食事が喜ばれている。(藤原啓嗣)

被災地和ます出張食堂

本震災
東大
5年

住宅の一室に住民が次々にや

て来た。こじんはんと
玄関にかけたのれんをくぐ

学生は仮設住宅の四畳半二
間の空き部屋一室を借りて食
堂を開いた。大が群れるサー
ブルといすを置き、住民が気
兼ねなく食事ができるように
している。大学が食材と活
生の片道分交通費を出し、学
動をする。

専立はサケをホワレンソウ
の卵炒めやハ宝菜など多彩
だ。健康に関心を持ってもら
う。

住民の無償赤間味噌作り
を企画、カキの養殖の仕事に
向かう住民もいる。

寝袋持参 もらいたい湯で交流も

り、食堂に入る顔は明るい。
学生が席に案内し、エビチリ
とナムル、スープをおおげさ
せて配膳した。味噌汁はう
かかぬに作る学生で、住民
たちは「みんなで食事で、最
高だ」と手を拍った。

おうちメニュー表にカロリー
と塩分量を考へ、
紙紙はもともとも栄養が

子と話ができるのもうれし
い」と喜ぶ。
学生は食堂に借りてい

場の味と感動する。
二位は「栗のみそ煮込み
スープ。二位さんは一体が
温まる」と笑顔。三位は天
むすの汁、エビチリが「栗
ずで好んだ。伏見園子さ
ん」も「みそ汁は好んでく
さんで、だしの割りがいい
」と話す。

「本場の味だ」名古屋めし人気



食堂は、管理栄養学部管理
栄養学科の田村明教授らが
震災後に萩浜を視察し、学生
が大学で学んだことを生かし
てボランティアが得意なか
と始めた。衛生管理や献立作
りを学ぶ同学科の学生が調理
に励む。

仮設住宅の住民のために
これまで約百五十食を揃
供してきた名古屋学芸大の
学生たち。住民は、どんな
メニューがに残ったのだら
うかと、記者が食堂に来た
住民18人に聞き返して聞い
たところ、名古屋めしが一
番人気だった。

一位は「栗のみそ煮込み
スープ。二位さんは一体が
温まる」と笑顔。三位は天
むすの汁、エビチリが「栗
ずで好んだ。伏見園子さ
ん」も「みそ汁は好んでく
さんで、だしの割りがいい
」と話す。

一位は「栗のみそ煮込み
スープ。二位さんは一体が
温まる」と笑顔。三位は天
むすの汁、エビチリが「栗
ずで好んだ。伏見園子さ
ん」も「みそ汁は好んでく
さんで、だしの割りがいい
」と話す。

食を揃え、名古屋学芸大の学生と調理する仮
設住宅の住民と話し、味噌汁を配膳する様子

五回目は今回は、二月十七
日(三月九日)に三年生七十
人が参加する。六、七人ずつ
が交代で一週間帯び、希望
する住民の朝食と昼食、夕食
を作る。

人気メニューをこぼす。ま
たは名古屋大学の学生たち

盛んな土地で五十世帯が暮ら
していた。津波で多数の家が
流され、二人が亡くなった。
多くの住民が仮設住宅に移住
し、今も十二世帯二十人が暮
らす。十七代以上のお年寄り
が多く、四人が一人暮らし
だ。